

◎第2回理事会(昭.35.7.25)出席者:沼田会長,富樫,滝山両副会長,岡本,小西,林,八十島,末森専務の各理事,議事:(1)前回に続き理事の会務分掌と委員会の分担の大綱を次のように決定した。

会務分掌および委員会分担

総務部:川村満雄(長),尾之内由紀夫,小西一郎
土木振興対策委員会,海外連絡委員会,土木会館委員会,土木賞委員会,土木賞規約制定委員会,土木技術者資格研究委員会。

経理部:阿部一郎(長),岡本東一郎

編集部:八十島義之助(長),小倉宏三
会誌編集委員会,論文集編集委員会,文献調査委員会,論文抄録委員会,土木史編集委員会,ハンドブック改訂委員会,製図規格委員会。

研究連絡部:林泰造(長),川勝四郎

水理委員会,耐震工学委員会,橋梁構造委員会,災害対策委員会,海岸工学委員会,原子力土木技術委員会

調査部:佐藤肇(長),田中行男

コンクリート常置委員会,PCコンクリート委員会。

(2)土木賞委員会関東地区4名を次のように選考した
星埜和(東京大学教授) 高畑政信(電源開発KK)
扇田彦一(東京都水道局) 岡本東一郎(白石基礎工事KK)

(3)秋のエキスカッション計画を承認。(4)土木賞規約改正案は一字句字を訂正して承認。(5)来年度通常総会および年次学術講演会の開催地として中部支部から受諾の回答があったので正式に依頼し,打合会を開くこと。(6)6月中の会員入退会を承認。(7)6月中の会計報告,刊行物状況,各種委員会の報告。

◎各種委員会

1. 第2回プレストレスコンクリート設計施工指針改訂特別委員会(昭.35.7.4)出席者:猪股,菅原,清野,宮崎(昭),小寺,白木,野口,松野の各委員,井上,船越の両幹事。議事:前回特別委員会で依頼したクリーブおよび許容応力の資料がある程度出そろったのでまずクリーブにつき提出委員が説明,質疑応答を行なった。その結果各資料を比較できやすいよう一定の尺度と形式により統一することになり次回までに幹事から送付する用紙にそれぞれ担当の分につきプロットして再提出願う事になった。許容応力については次回までに資料を御検討願うことになり,原案作成を小寺委員にお願いした。その他不十分の原案箇条につき審議,今回は7月28日の小委員会席上で決めることにした。

2. 第2回文献調査委員会(昭.35.7.5)出席者:久野委員長,安芸,石井,徳田,山村(代駒田),田中,石

原,依田,丹,高野の各委員,日野幹事。議事:1)45巻8号登載文献抄録および目録の選定。2)担当雑誌の追加および変更。3)宣伝パンフレットの取扱いについて。4)単行本の新刊目録の取扱いについて。5)各大学紀要の取扱いについて。6)雑誌担当専門委員の追加

石橋 毅氏 電力技術研究所
是枝 忍氏 同

3. 第1回論文集各部委員会(昭.35.7.6)出席者:最上委員長,西脇幹事,第1部会:君島,奥村新旧部会長平嶋,井上,伊藤(文),久保,相良,竹間,大久保,田島(旧)の各委員,第2部会:林,竹内新旧部会長,芦田,中山,高橋(裕),吉村,西原,千秋(旧),伊藤(和)(旧)の各委員,第3部会:最上部会長,高橋(彦),渡辺,山口,永盛,久野,竹下(旧)の各委員,第4部会:丸安部会長,多谷,佐藤,斎藤,藤井,柳田,土屋,松原(代深沢),細井(旧)の各委員。議事:1)各部会ごとに審査中原稿の審査報告および新規受付原稿審査委員の決定。2)新委員の担当部門について。3)アンケート案について。4)新委員会の方針について。5)新部会長および部会幹事を次のとおり決定した。

第1部会	部会長	君島博次	部会幹事	大久保忠良
第2部会	"	林泰造	"	芦田和男
第3部会	"	最上武雄	"	山口柏樹
第4部会	"	丸安隆和	"	佐藤裕

4. 第2回編集小委員会(昭.35.7.8)出席者:斎藤委員長,斎藤(徹),足立,久野の各委員。議事:1)45巻7号(増大号)口絵写真,ニュースの選定。2)新委員の担当欄について協議した。3)新規依頼原稿および豆知識の案について。4)45巻8号会誌編集につき最終的な打合せを行なった。

5. 災害対策研究委員会小幹事会(昭.35.7.14)出席者:三木幹事長,丸山,岡崎両幹事,末森専務理事。議事:委員会に提案すべきテーマを引出すべく小幹事会を開催種々御審議を願った結果,今後のこの委員会の作業として"特定の場所における構造物の現状調査"という事にしてその場所の選択等については次回幹事会で御審議願うことにし,その実現性についても種々討議した。次回幹事会でさらに具体案を粘った上で委員会に提案する。また"災害直後の調査に対するこの委員会のあり方"につき討議があり,規定その他をさらに明確にすることが必要と思われるのでこの件もあわせて次回幹事会で審議することに決定。次回委員会は7月末に開催することになった。

6. 第4回土木技術者資格研究委員会(昭.35.7.19)出席者:鈴木委員長,尾之内,奥田,柿野,久保,高畑,武井(代林),富樫,西嶋,西松(代古池),比企,藤森の各委員,樽井,久我の両幹事,末森専務理事。議事:

前回より懸案となっていた“土木工作物と建築物との区分につき具体的なものを取りあげて法政局の意見を聞く”という件と“外国の資料を集める件”につき発表があった。1) 土木工作物と建築物との区分については樽井幹事より説明。2) 外国の参考資料については事前に提出してあった4種の資料にもつき久保委員より説明。3) 不明の点については米国土木学会エンサイクロペディアプリタニカおよびコンサルタンツ業者に照会することにしてその内容の原案は比企委員がまとめる。4) 参考資料として樽井幹事より「建設業法の一部改正する法律」を資料として提出, 説明。5) 欧米における Structural engineer と Civil engineering との区別について説明があり, わが国としては Architects と Building engineer とを区別することの可否について種々討議が行なわれた。6) 建築基準法第88条(工作物への準用)の条文中「建築物に係る部分」という語については樽井幹事より一応調査いただき説明いただいたがなお一そう調べていただくことになった。7) 次回委員会について

日時: 8月19日(金)午後5時30分

議題: a) A.S.C.E. その他への問合せ事項, b) 技術士法および建築基準法を対象とするなるべく具体的な対策, c) 「係る」の意味再検討。

7. 第2回会誌編集委員会(昭.35.7.22) 出席者: 末森専務, 斎藤委員長, 足立, 浅井, 井前(代鶴見)久野, 佐藤, 斎藤(徹), 相良, 堺, 嶋, 梶野, 中村, 西田(代城所), 林(四), 林(茂), 山本, 米沢, 渡部, 山門後藤(東北)の各委員, 沓掛幹事。議事: 1) 投稿原稿審査報告。2) 新規受付原稿審査委員の決定。3) 依頼原稿の状況。4) 委員の月別担当および部門別担当について。5) 講座の件。6) その他学会誌の編集方針について。7) 45巻9月登載原稿を次のとおり予定した。

定井喜明: 交通事故より見た高速道路の立体交差の種類に関する考察, 小西一郎: 構造用高強度鋼材を用いたリベット継手の疲れ強さについて, 石原・福地: 城ヶ島大橋の架設について, 岡本舜三: 第2回世界地震工学会議報告, 上野忠男: 放射性廃液の処理について。

8. 第1回論文集部会長会(昭.35.7.26) 出席者: 最上委員長, 君島, 林, 大久保, 芦田, 山口, 佐藤の各委員, 西脇幹事。議事: 1) 各部会報告。2) 各部会での原稿処理状況の確認。3) 論文集第70号登載原稿の予定。4) 70号・別冊として1編予定した。5) 英文論文の取扱いについて。

9. 第39回耐震工学委員会(昭.35.7.27) 出席者: 沼田委員長, 岡本, 久保, 那須(代表), 比田(代松本)篠原(代二ノ丸), 高田, 田原, 小西(代山田), 島山, 伊藤(代高畑)の各委員。議事: 1) WCEEの終了に当り経過報告と謝辞が述べられた。2) 朝日イブニングニュースよりの田中 豊先生の登載論文に対する謝金に

ついてその原稿関係者9名に分配のことが決められた。

3) 英文耐震工学を出版関係者, 地震会議関係者に寄贈のことが決められた。4) 地震工学トレーニングセンターの状況について報告された。土木関係の研修は来年2月から7週間の予定で, 講議の割当は橋梁; 土木研究所, 水道; 東京都水道局, 港湾; 運輸技術研究所, ダム; 電力技術研究所を予定された。国連の方針としては来年度からは主管を建設省とすることになるであろう。5) 地震工学国際組織について世話役から4カ国に照会中。6) 国内組織については国際組織の連絡機関として学術会議に研究連絡委員会が設けられるまで, 土木, 建築, 地震3学会で設置し, 研究発表会も合同で行なう構想とする。7) 今秋の地震工学研究発表会は特別講演3, 一般講演7(地震会議に発表の中から選定)として次回までに久保委員がプログラムを編成する。

10. 災害対策幹事会(昭.35.7.27) 出席者: 岡田委員長, 三木, 丸山, 君島(代北原), 磯田(代高須)の各幹事, 末森専務。議事: 1) 7月14日小幹事会(三木, 丸山, 岡崎)における相談の結果を三木幹事長から報告があったが, 本日の幹事会で審議予定の“特定の場所における構造物の現状調査”について, 開催の主旨不徹底のため幹事の出幹少なく議事を進行することができなかった。2) 次回は提案課題を明示して8月中旬幹事会を開くこととし, 三木幹事長に起案を願うことになった。3) 磯田幹事は高須俊行氏(農地局建設部長災害復旧課)と交代すること。

11. 第5回P.C設計施工指針改訂小委員会(昭.35.7.28) 出席者: 国分委員長, 菅原, 山田, 猪股, 川口, 清野, 小寺, 樋口, 松野, 今村, 丹, 中村, 上前, 宮崎(昭), 小田, 野口, 板垣(代猪股)の各委員。井上, 船越の両幹事, 仁杉, 百島の両氏。議事: 1) 百島祐信氏(鹿島建設KK土木工務部)を委員に追加する。2) クリープ実測データ, リラクゼーションのデータ配布資料につき野口委員より説明。なお, 鋼材会社より集めているリラクゼーションのデータは幹事がまとめることになった。3) 11月開催予定の講習会是指針の改訂が遅れるおそれがあるので来春に延期したい。4) 7月4日の幹事会経過について野口委員から報告。5) 改訂原案42条から46条を逐条審議。6) 次回幹事会8月10日, 委員会8月15日のおの14時とする。7) 仁杉 巖氏をかこんで懇談した。

12. 長大橋梁および高張力鋼鉄道橋研究委員会(昭.35.7.29) 出席者: 田中委員長, 青木, 沼田, 成瀬, 福田, 田原, 小西(代山田), 奥村, 中村, 柿上, 埴田(代上野), 友永の各委員, 西村, 伊藤(学), 西脇, 大宮, 安藤, 安浪, 菊池, 伊藤(文), 田島の各幹事。議事: 1) 溶接鋼鉄道橋設計示方書(案)解説作成にともない, 35年3月案を訂正した点, その他解説中の主要点について討

議。2) 溶接鋼鉄道橋製作示方書第1章総則, 第2章材料および溶接器材について審議。3) 中央支間500mのカンチレバートラスの一般図, 格点構造, 架橋部等について検討。

支 部 だ よ り

1. 北海道支部

第1回役員会(昭.35.7.2 北海道電力において)出席者: 岩本支部長, 大橋幹事長, 入江, 遊佐, 和田, 松木, 梅木, 土谷, 高田, 小原, 小池の各商議員, 北郷編集委員, 議事支部長挨拶ののち, 幹事長司会のもとに(1)新役員の紹介, (2)35年度予算案, うち予備費の運用については研究すること。(3)支部運営ならびに行事予定。(4)名誉員齋藤静脩氏推せんの経過報告。(5)支部保管資料の整理について。

2. 東北支部

(1) **チリ津波調査委員会設置**(昭.35.6.25) 次の構成により委員会を設置し, 今後の災害対策につき考究することとなった。

委員長	樋浦	大三	東北大学教授工学部
委員	原田	千三	東北大学教授工学部
"	河上	房義	東北大学教授工学部
"	岩崎	敏夫	東北大学教授工学部
"	今野	彦貞	東北大学助教授工学部
"	後藤	幸正	東北大学助教授工学部
"	吉本	彰	東北大学助教授工学部
"	松本	順一郎	東北大学助教授工学部
"	倉西	茂	東北大学工学部講師
"	菱田	英三	宮城県土木部長
"	高橋	博	宮城県土木部河港課長
"	富田	耕	宮城県土木部河港課技師
"	高橋	巖	宮城県土木部道路課長
"	樋口	芳夫	宮城県土木部計画課長
"	成沢	淳一	宮城県農林水産部漁港課長
"	柿	菊市	岩手県土木部長
"	菊地	正男	岩手県土木部河港課長
"	佐々木	忍	岩手県土木部河港課技師
"	森	隆	岩手県都市道路課長
"	村本	順治	福島県土木部長
"	齋藤	正男	福島県土木部河港課長
"	高畑	正治	福島県土木部道路課長
"	由良	勇	青森県土木部長
"	飯島	寿	青森県土木部河港課長
"	藤田	久	青森県土木部道路課長
"	田坂	栄美	東北地方建設局長
"	佐々木	茂	東北地方建設局河川部長
"	伊藤	直行	東北地方建設局企画室長
"	藤原	孝	国有鉄道東北支社調査役

委員	高橋	倫夫	国有鉄道仙台鉄道管理局施設部長
"	鈴木	季一郎	国有鉄道仙台鉄道管理局工事課長
"	長谷川	亘	国有鉄道盛岡鉄道管理局施設部長
"	梅津	清七	国有鉄道盛岡鉄道管理局工事課長
"	矢崎	道美	東北電力KK建設部長
"	吉田	栄延	東北電力KK土木部長
"	松田	義久	東北電力KK土木課長
"	武	秀雄	運輸省第二港湾局小名浜港工事事務所長
"	木戸	武	運輸省第二港湾局釜蓋港工事事務所長
"	杉村	悟	運輸省第二港湾局富古港工事事務所長
"	菅野	一	運輸省第二港湾局八戸港工事事務所長

(2) **見学会**(昭.35.7.7~8) 国道四号線直轄工施行箇所(仙台~白河間)ならびに吾妻有料道路見学会会費1500円, 参加者70余名。

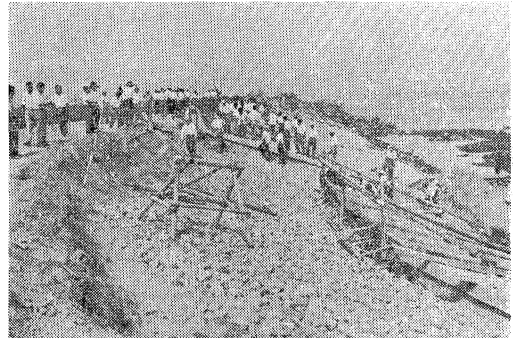
4. 中部支部

(1) **第4回幹事会**(昭.35.7.12 ニューボーン集會室)出席者: 渡辺幹事長, 後藤(代), 高橋(代), 高田(代), 富永, 加藤, 宇佐美, 栗田(代), 滝淵, 榊, 藤本(代), 土方(代), 倉田, 長坂, 白井, 鈴木, 菊田, 栗栖の各幹事。

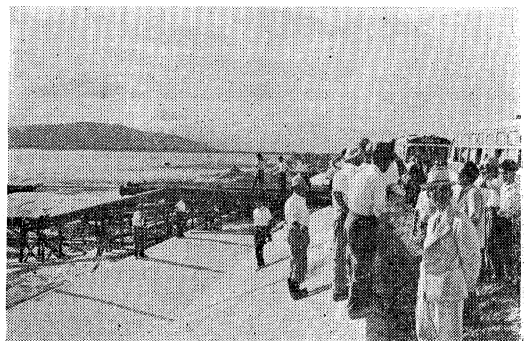
(2) **第2回見学会**(昭.35.7.15)

- 1) 見学先: 建設省海岸堤防復旧工事現場
- 2) 参加者: 160名
- 3) 経過: 出発に先き立ち午後1時より中区役所の会議室で建設省愛知工務所長神田精夫, 河川部河川

河川堤防の復旧工事見学



名四国道の見学



工事第二課長 鈴木嶺夫の両氏より工事概況の説明をききバス3台をつらねて愛知県海部郡の筏川川口付近の海岸堤防の復旧工事の現場を見学し、ついでもっとも悲惨な被害をうけた農林省鍋田干拓地のあとを車窓にながめながら木曾川左岸にいたり河川堤防の復旧工事および最近着工した名四国道の盛土工事の現場を見学し、午後6時半名古屋市栄町で解散。幸いに曇天のためあまり暑さを感じることなく盛会であった。

3. 西部支部

第2回幹事会 (昭・35・6・27) 出席者：田中支部長、藤村幹事長、有田、二上、藤戸、山下、立部、近藤、荒木、伊藤、岩辺、中野の各幹事。議事：1) 新幹事長、新支部長あいさつおよび支部長選挙報告。2) 春季見学会報告。3) 35年度予算案承認。4) 夏季講習会計画(8月23日雲仙において)。5) 秋季講習会、見学会計画(10月末土質工学会と共催)。

編	集
後	記

この号をお届けできますのは8月の残暑きびしい頃になりました。うが皆様お変わりなく御活躍のことと思います。本号には御覧いただいたとおりの諸編を集めました。次号には定井氏の「交通事故より見た高速道路の立体交差の種類に関する考察」、小西博士の「構造用高強度鋼材を用いたリベット継手の疲れ強さについて」、上野氏の「放射性廃液の処理について」、石原・福地氏の「城ヶ島大橋の架設について」、岡本博士の「第2回地震工学会議報

告」の諸編を予定しております。編集関係者一同皆様の御要望に沿う学会誌を作ろうと努力しております。先月号から広告に目次をつけたりにしてはありますがどうか。近年土木関係の各部門も専門分化しつつあり、ちょっと他の部門のことはわからなくなっています。学会誌もふくまれる巾が広いので掲載されるものの大部分が自分の専門外のことになり、その点各部門ごとの専門誌の方が関係の深い記事が多いというようなこととくらべてマイナスですが、また別の意味からみますとの

部門のことも自分の関係している部門と無関係というわけではなく時々接触もあるし、また参考になる点がありますので土木全体を統合したものがどうしても必要と思われる。こういった点にも学会誌の意義があると思われ。学術雑誌です。実用的な面だけを強調するわけにはゆかないでしょうが、具体的な記事とか議題について「何々の問題について載せて貰いたい」というように皆様の御希望をぜひ伺わせていただきたいと思っております。

〔足立・記〕

会員入退会について (昭和 35 年 7 月 31 日現在)

1. 入 会	92 名 (正 49, 学 42, 特 1 C 1)
2. 復 活	3 名 (正 3)
3. 転 格	0
4. 退 会	29 名 (正 25, 学 4)

会 員 現 在 数 (昭和 35 年 7 月 31 日現在)

名誉員	賛助員	特 1 A	特 1 B	特 1 C	特 2	特 3	正員	学生員	増加	計
34	30	17	17	101	126	123	13 500	1 179	66	15 127

正員	和田重辰君	佐伯建設工業KK取締役会長	昭和 35 年 6 月 25 日死去	67 才
正員	小林勇君	京都大学教授工学部土木工学科	昭和 35 年 7 月 10 日死去	58 才
正員	腰塚寛三君	清水建設KK土木部営業部長	昭和 35 年 7 月 13 日死去	56 才

昭和 35 年 8 月 10 日印刷

印刷者 大沼正吉
発行者 末森猛雄

定 価 100 円

昭和 35 年 8 月 15 日発行

印刷所 株式会社 技報堂
発行所 社団法人 土木学会

振替 東京 16828 番

土木学会誌 第 45 卷 第 8 号

東京都港区赤坂溜池 5 番地
東京都新宿区四谷一丁目(外濠公園入口)

電話 (351) 5130・5138・5139 番